

メカデザ×機械学習による混雑コントロールシステムCRABの開発

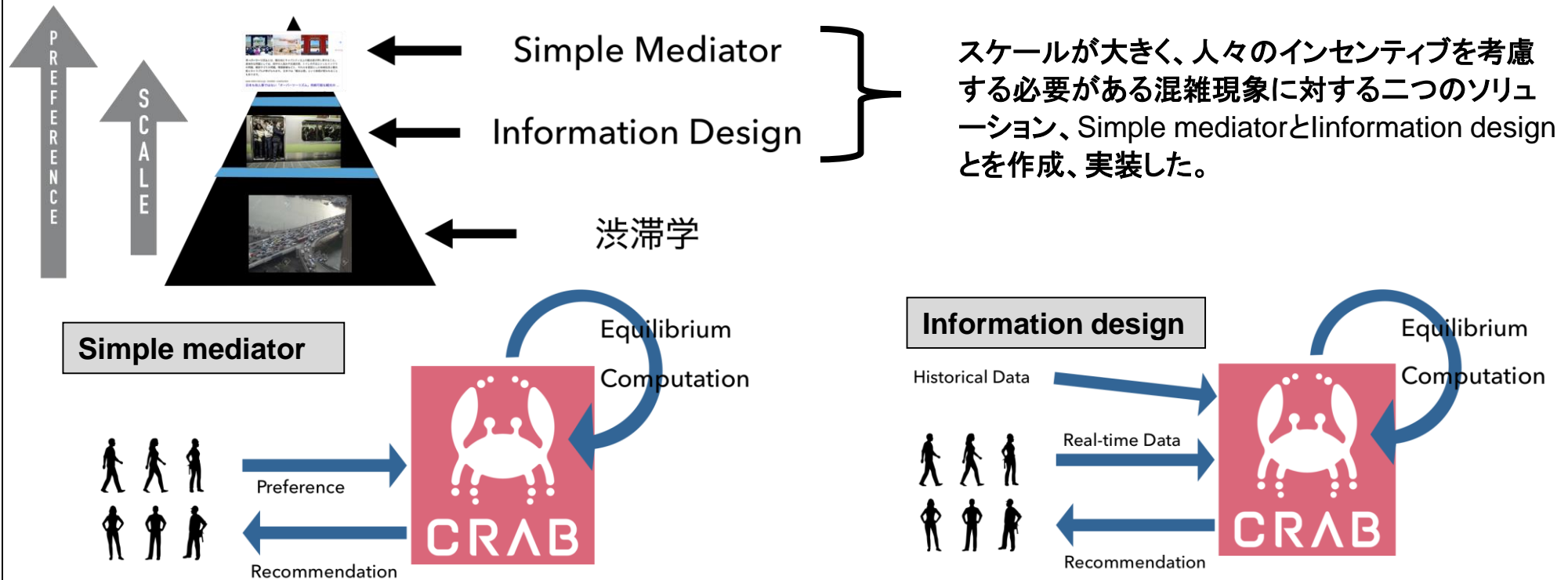
—協調をサービスとして社会に実現させる一つの試み—

池上慧、松下旦、奥村恭平

【背景・目的】

- 混雑が問題となるのは、一人が選択を変えるだけでより良い選択が可能だからである
- したがって均衡状態が実現するように人々を協調させるデバイスで、局所的な混雑は解決できる
- さらに人々の取るべき行動を合わせてレコメンドすることで、意思決定の労力を省略、容易に正確な行動をとることが可能となる
- 混雑のスケールに対応したアルゴリズムを作成し、現在対処策のない混雑に均衡と推薦というソリューションを提案する

【作成したサービス(コンセプト)】



【作成したサービス(実装)】

Simple mediator

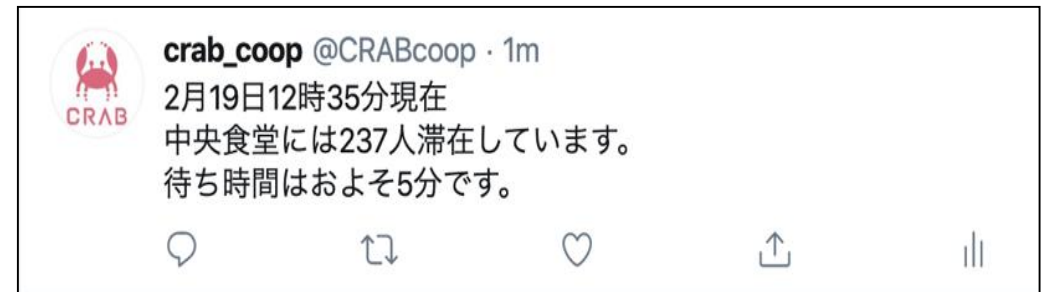
オーバーツーリズム対策となる 旅程作成補助アプリ



Information design

東大中央食堂での実証実験

- 現在存在する顧客数をカウントするセンサー
- カウントをSNSで配信
- 売り上げ最大化のためのレコメンドを導出



【今後】

- 交通インフラなどより大きな問題での実証実験を行う
- 応用先を増やすため理論研究を進める